

ケイ マイケル、ちよつといい

マイケル ああどうした

ケイ 子供が待っているの もう行くわ

マイケル 行くなってどこへ 帰るのは明日だろう

ケイ ロコ・・・

ロコ じゃあ 部屋にいるから

ケイ 私ネバダへは帰らないわ。子供たちもお別れをしにつれてきたの。 査問会では勝って

おめでとう あなたの事だからあんな人たちに負けるはずないとは思ってたけど

マイケル まあかける

ケイ いい。長居するつもりはないの。直ぐ行くから。

マイケル 君とは話したいと思ってた。前から考えてたこともある。変えたいと思ってることもある

ケイ 変えると言われてももう手遅れなのよ。あなたには何を言っても無駄。だから、もう・・・

マイケル 手遅れというのはどういう意味だ

ケイ フランキーはどうしてあんな事を言い出したの？

マイケル 兄さんが来たからだろ

ケイ 兄さんがいるなんて知らなかった いまどこに

マイケル シチリアへ帰る飛行機の中だ

ケイ 顔を見せに来ただけなのね

マイケル ケイ。兄弟間の問題だ私は関係ない

マイケル とにかくどこへも行かせない 君も子供たちもだ 分かったな 君も子供も愛している

離れることは許さん

ケイ 愛しているなら言い分を聴いてくれたらいいじゃない 許さないなんておかしいわよ

マイケル ちよつと待て、昔から男と女の間には色々違いがある、今さら変えられない事もあるんだ

ケイ (かぶせるように) マイケル、マイケル、あなたには何も見えてないのよ、マイケル、何も見えてない

マイケル 何がだ

ケイ 私たちがどうなったか見て見なさい 息子がどうなったか見るといいわ マイケル

マイケル どうにもなってない

ケイ だから何も見えてないの

マイケル なんともない

ケイ 何がどうにもなってないよ

マイケル 何も聴きたくない

ケイ (かぶせるように) いいえ、聞いてもらおうわ。なんでもかんでも頭から押さえつけて・・・

マイケル (かぶせるように) 俺は何も聞きたくない 何も聴きたくない 黙れ! もういい

ケイ もうあなたを愛していないの。どんなことがあっても愛していいこうと思ってたのに

マイケル ケイ。出発は明日だ。子供達を部屋に戻して。

ケイ なにも聞いていないのね。

マイケル ケイ。何を期待した? 「じゃあ、分かれよう」と言うとも? この私が「どうぞ、子供達も連れて行け」とでも言うと思ったのか。そんなことはありえない。分ってるだろ。そんな事はどんな手を尽くしても私が阻止する事だ、知ってるだろ。

ケイ、時間が経てば君の気持ちも変わっている。引き止めたことを喜ぶ日が来る。分ってる。子供を失ったことで私を恨んでいる。そうだろ。辛かったと思う。その気持ちが良くわかる。償いはする。

僕は変わる。必ず。変わる勇気が持てたんだ。流産のことは忘れよう。子供はまた作ればいい。二人でがんばるんだ。もう一度。

ケイ マイケル。あなたは何もわかっていないわ。あれは流産じゃない。あれは中絶なの。おろしたのよ。私達の結婚も同じ、終わらせるしかない恐ろしい事、罪深い事なの。あなたの子供がいやだった。

あなたの子供をもう一人この世に生みたくなかった。おろしたのよ。男の子だった。私があなたの息子を殺したのよ。この生活を終わらせたかった。だからやったの。そしてあの時全てが終わったの。もう無理よ、どうやってわたしを許すつもりなの。許せはしないわ。たとえシチリアの古臭い……

(マイケルはケイを殴る)

マイケル 子供を置いて出て行け

ケイ いいえ、連れて行くわ

マイケル 子供は絶対にわたさん！

ケイ 私もよ……

マイケルは政界や芸能界の奥深くにまで影響力を及ぼすマフィアのドンである。ニューヨーク五大ファミリーの一つと呼ばれるその組織は彼の父ドン・コルレオーネが幼年期にシチリアを追われ独りで渡米し、「家族を守り」「友達を信じる」という信条を貫き一代で築き上げたものだった。マイケルは本来、大学を中退して従軍、英雄として復員するような男で堅気の人生を送るつもりだった。ドン・コルレオーネもまたマイケルが堅気の生活を送ることを望んでいた。マイケルの恋人ケイもマイケルが家業と一切関係しないという誓いを信じていた。しかし、ドンが狙撃される。本来、家業を継ぐはずの長男も暗殺されマイケルは家族と組織を守る為に自分の人生プランを犠牲にしてマフィアのドンになる事を選択する。全ての事業をいづれ合法化することを約束しマイケルは恋人のケイと結婚する。しかし、様々なトラブル処理に追われ次第にマイケルはマフィアのドンに染まっていく。ケイは彼を愛する事で難局を乗り越えようとする。5年の間に全ての事業を合法化するという約束は果されなまま7年が過ぎ、二人の間には既に二人の子供がいる。ある夜遅く、夫婦の寝室に機関銃が打ち込まれる。マイケル暗殺は未遂に終わったが子供達は怯え、ケイの不信感も極致に達している。首謀者を突き止めるために長らく家を空けていたマイケルがアメリカに戻るとケイが流産したことを部下に伝えられる。上院委員会は、犯罪組織の首魁としてマイケルを告発しようとしていた。かつてのファミリーの一員である فرانクは自分がマイケルによって殺されかけたとし、FBIと協定を結び、マイケルに不利な証言をする気であった。証言の直前、マイケル陣営が連れてきたフランクの兄を見てフランクは態度を急変、証言を翻し、委員会は混乱状態に陥りマイケルはフランクの兄という人質のお陰でなんとか査問会に勝利する。ケイは査問会でマイケルにかけられている嫌疑、それに対応するマイケルに失望の視線を送っている。査問会に出廷する為に宿泊していたホテルの一室。もう一泊して明日ネバダの自宅へ戻る予定だったが、マイケルは子供たちを連れて彼の元を直ぐにでも去ろうとするケイと激しく言い争うことになる。